

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2014年 11月 18日提出

氏名	森田 智也
所属	獣医内科学教室
学年	D1
出張先	グランキューブ大阪
出張期間	2014.11.14～16
目的	第 35 回動物臨床医学会記念年次大会における学会発表

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

申請者は本研究科附属動物病院において獣医師として診療に参加している。その中でも特に循環器および呼吸器疾患に関心を持ち診療にあたっている。今回は重度の呼吸器症状を主訴に附属動物病院に紹介来院された症例について貴重な知見を得たため、第 35 回動物臨床医学会記念年次大会において発表することとなった。本学会は、毎年 11 月に大阪の同会場にて 3 日間開催される全国規模の臨床獣医学会であり、獣医師はもちろん、学部学生、動物看護師も多く参加する学会である。またその講演、発表の範囲は多岐にわたり小動物の内科学、外科学だけではなくエキゾチックアニマルに至るまで網羅されており、国内外の著名な獣医師 (講師) を招いての教育講演も多数行われた。

申請者は学会 2 日目に症例検討のセッションにおいて発表を行った。発表演題は「免疫抑制量のプレドニゾロンが奏功した重度肺高血圧症を伴う間質性肺疾患を疑ったウェルシュ・コーギーの 1 例」である。発表の概要は、人医療において間質性肺疾患はその重症度や罹患率の高さより重要視されている疾患であり、診断法や分類、治療法が確立されてきている疾患である。しかし獣医学領域においては明確な分類や治療はおろか症例報告すら少数のみである。そのため臨床経過や治療に関する知見は限られており診断、治療が遅れることで救命することができない症例が存在すると考えられる。今回、各種検査により確定診断には至っていないものの間質性肺疾患が強く疑われた症例に対して人医療で有効とされている免疫抑制治療を行ったところ、呼吸状態の劇的な改善を認め救命し得た症例について報告した。今回の報告でより一般的な呼吸器疾患である細菌性肺炎や肺腫瘍が否定的な場合には、間質性肺疾患を鑑別診断に加える必要性を提案できたことで、臨床において同様の症例が救命される機会が少しでも増せばと考える。また我々の施設での経験では、同様の疾患がウェルシュ・コーギーに好発している可能性を考えており、他 2 次診療施設においても同様の見解が得られていることをディスカッションすることができた点が最も有意義であ

ったと感じた。

今回聴講した講演のなかで最も印象深かったものは、「救命救急における肺エコーの実践」である。犬において肺炎などの呼吸器疾患や心原性肺水腫などの循環器疾患による呼吸困難は生命を脅かす危機的状況である。現在その診断はレントゲン検査や心臓超音波検査により行われているが、これらの検査は呼吸状態の悪い患者を横臥位などに保定する必要があり検査による状態のさらなる悪化の可能性もある。そこで人医療において簡便かつ負担の少ない肺エコー検査が普及してきている。これを夜間救急動物病院において犬に実施した概要についての発表であった。肺エコー検査は、犬においても症例の状態に合わせストレスをかけることなく実施可能であり、レントゲン検査で検出した病変を約 9 割の患者で検出可能であった。しかし症例数や CT 検査などとの比較検討が十分ではなく疾患を鑑別するまでには至っていないため、今後は他の検査との照合を行うことで肺エコー検査の有用性についてさらなる検討を行っていくとのことであった。

博士課程教育リーディングプログラム「One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」の助成により全国規模の学会において発表する機会を得て、申請者の興味を持っている分野における様々な先生方とディスカッションをすることができ、新たな視点や今後の診療や研究への意欲を刺激され大変有意義であった。今後はこの経験を生かし国内学会のみではなく、海外学会においても発表できるよう日々努力していくつもりである。



図 1：学会ポスター

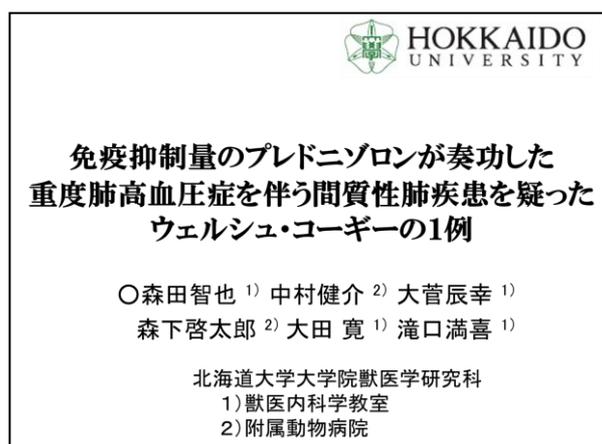


図 2：発表スライドの一部

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 獣医内科学教室・教授・滝口 満喜 印
---------	--------------------------------

北海道大学
博士課程教育リーディングプログラム
「One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」

- ※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp